

## ガネフォ60周年に寄せて

ローマオリンピック出場

山本 健

(慶応義塾大学出身)

ガネフォの参加からとうとう60年も過ぎました。村上氏からここで最終版を作ると言う事の寄稿要請があり、自分としては当時日本のため敢然として日本水泳連盟を脱退し、ここに参加した選手たちを応援することが出来たと言う事だけで満足しておりました。個人的に後押ししたことであり、大げさな事は何もやったわけではなく、誉めて頂くほどの事は決してないと自分では思っています。

この大会への参加のそもそものいきさつとか、その後の選手たちの努力、あるいは社会や会社での葛藤などは、皆さんからも言い尽くされていると思います。日本の役に立ち歴史に残る素晴らしい事を成し遂げた。そのことに敬意を払う事は言うまでもありません。

当時日本は、まだアメリカの占領時代からの影響を受けていました。迫る東京オリンピックで、世界的に認められるよう頑張っていました。インドネシアは、日本の応援もあって独立したと言う親日的な考えも持ちつつも、次のステップのため中国にも周波を送り、それを新しい自分たちの国を中心としたオリンピック(ガネフォ)をやる事でアピールしていました。したがってここへの参加は、日本としては当時懸案の義務であった賠償問題、将来の貿易等もあり、本音は協力したいが表向き言えない。そして白人社会の指導する世界的な連盟の指導には、日本のスポーツ

界は反抗することができませんでした。

長い時が経ち本年 9 月 7 日岸田総理は、インドネシアで演説し、さらに数ヶ月前には天皇陛下も訪問しています。今更と言うこともありませんが、インドネシアとの交流の重要さは、認識されているわけです。時の選手団が大チームを作り、日本国をアピールした事が連綿と続く両国の親善に役立っていることは、言うまでもありません。もしその歴史が年毎の年輪となって、あたかも土地の断層の様に積み重なっていくものだとすれば、この当時の日本選手団の力は実に堅固な土台を作りあげた。そしてこの記念誌も記念碑として残されても良いのではないかと思います。

過去日本の代表として戦ったオリンピック選手団は神宮の記念館にその名前が記録されています。しかし選手の実績はあくまで競技についてのものであります。このガネフォ選手の如き国家の歴史に偉大な足跡を残したわけではありません。ガネフォ選手は勇士でありました。多くの社会的困難を乗り越え、ここに参加する事でそれぞれ見事な人生を送った勇者です。この記念誌も最後となるのであれば、記念誌でなく記念碑として残してはいかがかと思えます。すでに物故した半数近くの選手たちと共に、未来永久に称えられることを信じます。